

北アルプスの両生類・爬虫類の記録

著者	荒木 克昌, 南部 久男
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	25
ページ	137-139
発行年	2002-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=773

短 報

北アルプスの両生類・爬虫類の記録*

荒木 克昌

(株) アースコンサル

南部 久男

富山市科学文化センター

Records of amphibians and reptiles from Northern Japan Alps, Toyama Prefecture.

ARAKI Y. and H. NAMBU

富山県の亜高山・高山帯の両生類・爬虫類の記録には、古くは吉澤 (1914) のクロサンショウウオ、鏑木 (1934) の立山・黒部の両生類・爬虫類、植木 (1962, 1964) の立山周辺の両生類・爬虫類の記録があり、近年では、高山帯を含む富山県両生・爬虫類研究会 (1987) の記録、湯浅 (1994) の立山カルデラ、湯浅他 (1999) の立山地区の報告、南部 (2001) の高山帯を含む富山県の目録がある。しかし、高山帯は調査困難な地域であるため、両生類・爬虫類の生息状況は断片的にしか知られていない。今回、北アルプスの数ヶ所で筆者らが確認した記録を報告する。

調査地域

2000年～2001年にかけて、大山町高天原周辺 (調査日: 2001年, 8月2日, 8月3日, 9月8日), 上市町早月尾根 (2000年8月12日), 上市町大猫平 (2001年8月25日), 宇奈月町南越周辺 (2001年7月17日, 9月19日) の標高1,500m以上の地域で調査した (図1)。なお、本調査は荒木がトンボ類の調査の際に、確認したものである。

高天原 (富山県大山町) は、長野県との県境に近い黒部川源流の岩苔小谷付近に位置し、高天原小屋 (2,120m) の背後には、水晶岳 (2,977m) がそびえ、赤牛岳 (2,864m), 薬師岳 (2,926m) などが連なる。高天原には広大な池糖を含む湿地が広がり、周りはおオシラビソ等の針葉樹で覆われている。高天原小屋から約40分程度離れた場所には夢ノ平と呼ばれる池糖群や竜晶池が存在する。

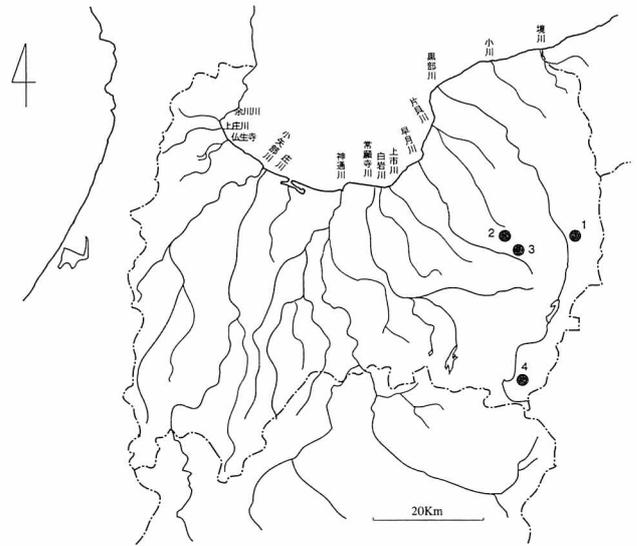


図1 調査地点。1 宇奈月町南越, 2 上市町大猫平, 3 上市町早月尾根, 4 大山町高天原。

早月尾根 (富山県上市町) は、剣岳 (2,998m) から北西方向に伸びる尾根である。剣岳への登山道として古くから利用されており、上市町馬場島 (760m) を登山口とする。尾根は急勾配であり痩せ尾根ではあるが、松尾平周辺 (1,030m), 避難小屋跡地周辺 (1,970m), 早月小屋下部 (2,050m) には池、池糖が存在する。

大猫平 (富山県上市町) は、猫又山 (2,378m) から西南西に伸びる尾根上に位置する大猫山 (2,055m) の南西約1 kmに存在する。大猫平 (1,850m) への登山道は、上市町馬場島のブナグラ谷に登山口を持ち、2001年7月に開通した。大猫平には、大小10数個の池が見られ、池糖群が分布している。

南越 (富山県宇奈月町) は、祖母谷温泉 (820m) から唐松岳 (2,696m) へ向かう登山道途中に位置し、餓鬼ノ田圃周辺 (1,640m) や避難小屋周辺 (1,840m) には複数の池、池糖が見られる。

確認した両生類・爬虫類

今回の調査地の標高1,500m以上で確認した両生類は5種、爬虫類1種である (表1)。地域別では、高天原周辺で、5種の両生類 (クロサンショウウオ *Hynobius nigrescens* Stejneger, ハコネサンショウウオ *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn), アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* Boulenger, タゴガエル *Rana tagoi tagoi* Okada, モリアオガエル *Rhacophorus arboreus* (Okada et Kawano), 早月月尾根では1種の両生類

*富山市科学文化センター研究業績第271号

表 1 確認された両生類・爬虫類

＜高天原＞				
種名	地名	標高(m)	調査日	確認状況
クロサンショウウオ	トンボヶ原の池	2130	2001.8.2	幼生+++
	竜晶池	2050	2001.8.2	幼生+++
ハコネサンショウウオ	岩苔小谷	2100	2001.8.3	幼生 4 ex.
	岩苔小谷	2100	2001.9.8	幼生 1 ex.
アズマヒキガエル	トンボヶ原	2130	2001.8.2	成体 3 ex.
	トンボヶ原	2130	2001.9.8	成体 2 ex.
	高天原小屋横湿地	2120	2001.8.2	成体+幼体+
	高天原小屋横湿地	2120	2001.9.8	成体 3 ex.
	竜晶池	2050	2001.8.2	成体 1 ex.
タゴガエル	高天原小屋横湿地	2120	2001.8.2	成体 5 ex.
	高天原小屋横湿地	2120	2001.9.8	成体 2 ex.
モリアオガエル	トンボヶ原の池	2130	2001.8.2	幼生+++
	竜晶池	2050	2001.8.2	幼生+++
シマヘビ	高天原小屋横登山道	2120	2001.9.8	成体 1 ex.
＜早月尾根＞				
種名	地名	標高(m)	調査日	確認状況
クロサンショウウオ	避難小屋跡付近の池	1970	2000.8.12	成体++幼生+++卵囊++
	早月尾根途中の池糖	2050	2000.8.12	成体++幼生+++卵囊++
＜南越＞				
種名	地名	標高(m)	調査日	確認状況
クロサンショウウオ	餓鬼ノ田圃周辺の池	1640	2001.7.17	成体++幼生+++卵囊++
	餓鬼ノ田圃周辺の池	1640	2001.9.19	幼生++
	避難小屋周辺の池	1840	2001.7.17	成体++幼生+++卵囊++
モリアオガエル	餓鬼ノ田圃周辺の池	1640	2001.7.17	幼生+++
	餓鬼ノ田圃周辺の池	1640	2001.9.19	幼生++
	避難小屋周辺の池	1840	2001.7.17	幼生+++
＜大猫平＞				
種名	地名	標高(m)	調査日	確認状況
クロサンショウウオ	大猫平の池	1850	2001.8.25	幼生+++
モリアオガエル	大猫平の池	1850	2001.8.25	幼生+++

+0～10個体, ++個体数11～50個体, +++51個体以上

(クロサンショウウオ), 上市町大猫平では2種の両生類(クロサンショウウオ, モリアオガエル)を確認した。爬虫類は薬師沢で, シマヘビ *Elaphe quadrivirgata* (Boie) 1種だけが確認された。なお, モリアオガエルとシュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii* (Günther) の識別は行なわず, 本報告ではモリアオガエルとして扱ったが, 今後の精査が必要である。

確認された両生類の棲息域の標高は, すでに知られている範囲内であった(南部, 2001)。

クロサンショウウオの高山での記録は, 立山連峰の奥大日岳(標高2,605m)(植木, 1962)や剣岳仙人池(標高2,080m)(吉澤, 1914), 朝日岳周辺(標高2,100m)(富山県両生・爬虫類研究会, 1987)等で知られ, 今回の調査では1,640m～2,050mの範囲で確認した。卵囊の色は, 早月尾根のものでは, 半透明なものと透明なものが混在し, 南越では, 半透明なものと白色の

ものが混在していた。

ハコネサンショウウオは, 立山連峰の黒部川東沢(標高2,700m), 赤城岳(2,580m), 三俣蓮華岳(2,550m), 五龍岳(2,540m), 立山大観峰(2,316m)(富山県両生・爬虫類研究会, 1987)等が知られ, 今回は2,130mの地点で確認した。

アズマヒキガエルは, 北アルプス五龍山荘(標高2,500m), 立山室堂(標高約2,400m), 大日岳(植木, 1962)等で記録され(富山県両生・爬虫類研究会, 1987), 今回は2,050m～2,150mの範囲で確認できた。タゴガエルは, 2,310m(立山町室堂)で確認され(南部, 2001), 今回は2,120mで確認できた。モリアオガエルは成体が大日平(1,700m)で確認されており(南部, 2001), 今回は1,640m～2,030mで確認された。

今回確認できた爬虫類は全長約80cmのシマヘビのみで, 2,120mの草地で目撃された。近くには山小屋

へ資材を運ぶヘリコプターのヘリポートがあり、資材に入り込んで逃げた可能性もある。富山県のシマヘビの最も標高の高い既知産地は1,370mの大山町立山カルデラ(湯浅, 1994)である。今回の記録が自然分布かどうかは今後の精査が必要である。

富山県で、1,500mを越す爬虫類の記録は、ジムグリ *Elaphe conspicillata* (Boie) (赤色タイプの個体であるアカジムグリ) が立山の標高2,992mで(植木, 1966b), アオダイショウ *Elaphe climacophora* (Boie) が立山弘法平の標高1,600m(湯浅他, 1999), 大山町東笠山の1,665m(富山県両生・爬虫類研究会, 1987)で、ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus tigrinus* (Boie) が立山弘法平の標高1,600m(湯浅他, 1999)で、マムシ *Agkistrodon blomhoffii* (Boie,) が平村人形山の標高1,750m(富山県両生・爬虫類研究会, 1987)で記録され、標高2,000mを越す地域の爬虫類の既知種はジムグリだけである。

謝辞

調査に協力していただきました大野豊氏、二橋亮氏に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 鏑木外岐雄. 1934. 黒部立山地方の動物相. 黒部立山天然記念物調査報告. pp. 47-60, 第17図版. 文部省.
- 南部久男編. 2001. 富山市科学文化センター収蔵目録第14号. 両生類・爬虫類, 105pp.
- 富山県両生・爬虫類研究会. 1987. 富山県の両生類・爬虫類. 富山県, 66pp.
- 植木忠夫. 1962. 称名溪谷を中心とする哺乳類と両生類について. 立山—称名滝とその溪谷を探る. pp. 224-232. 立山・称名滝学術調査団, 富山新聞社.
- 植木忠夫. 1964. 立山山系とその周辺地域(TKA地域)の小哺乳類および有尾両生類. 北アルプスの自然. pp. 193-204. 富山大学学術総合調査団.
- 植木忠夫. 1966. 富山県産動物の採集品について(1828-1965). 富山女子短期大学研究報告(1): 117-129.
- 吉澤庄作. 1914. 越中に産するサンセウウヲの種類. 動雑. 26 (311): 451-454.
- 湯浅純孝. 1994. 両生・爬虫類. 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書. 5 動物pp. 31-38. 富山県.
- 湯浅輝久, 佐藤武彦, 篠田耕児, 西岡満, 松田勉, 山野浩平, 1999. 両生類, 爬虫類, 立山地区動植物多様性調査報告書. pp. 79-81富山県.